

福長神社

[東陣]

福長神社は、室町通のすぐ東の住宅街にひっそりと佇む小さな神社です。その歴史は平安時代（794～1185 年）まで遡り、当時は御所の内部に 5 柱の神々が祀られ、御所のさまざまな部分を守っていました。

そのうちの福井（さくい）と綱長井（つながい）という 2 柱は水全般の守護神、そして特に井戸の守護神でした。それらの神々は、16 世紀のどこかの時点で現在地に移されたと考えられています。福長神社は、京都の中心部を鳥瞰図で描いた狩野永徳（1543～1590 年）の有名な屏風絵「洛中洛外図」に描かれています。

福長神社はもともと広い敷地に建っており、1788 年の大火で京の大半が焼け落ちた後、現在の規模に縮小されました。現在この神社は、皇族の安寧ではなく、静かな近隣の井戸を見守っています。